

第2回自動車用材料シンポジウムを開催して

武智 弘／福岡工業大学

日本鉄鋼協会の境界領域委員会が、学際的のみならず業際的境界領域活動もまた重要という事で、自動車用材料分科会を設置してから2年が経過した。この分科会は自動車技術会の材料部門委員会と合同で自動車用材料共同調査研究会を設立し、その活動の一環として年1回秋の鉄鋼協会講演大会の会場でシンポジウムを行う事になっている。シンポジウムでは今後の自動車用材料について議論しておくべき大きな問題を取り上げ、鉄鋼・自動車双方の委員が講演やそれぞれの立場を個人的意見に基づいて述べ合うパネルディスカッションなどを行っている。

第2回のシンポジウムのメインテーマは「いま自動車材料に期待されること——低コスト化と材料技術——」であった。

シンポジウムの午前中はまず柴田境界領域委員長(阪大)の挨拶の後、「最近の自動車生産技術と材料のかかわり」というサブテーマの下に筆者による基調講演と鉄鋼側スピーカー6名による講演が遠藤自動車技術会材料部門委員長(横国大)の司会の下に行われた。内容は「テラードブランク鋼板」(新日鉄)、「ハイテンロードホイール」(川鉄)、「黒鉛化鋼板」(住金)、「鉄系焼結部品」(神鋼)、「非調質鍛造用鋼」(NKK)、「排気系用ステンレス鋼」(日新)であった。この詳細はテキストを御参照頂きたい。

午後には「自動車の低コスト化への取組み」および「自動車の海外生産と材料調達」という2つのサブテーマについて、鉄鋼側委員6名・自動車側委員7名のパネラーによる討論が筆者の司会により行われた。討論に先立ってトヨタ、日産、ヤマハ発動機の3名の委員から導入講演が行われた。第1のサブテーマ「自動車の低コスト化への取組み」について討議された項目は次のとおりであった。

- ・自動車用材料の使用状況
- ・クライスラー社のネオンの解体評価結果
- ・過剰品質・規格不統一問題
- ・輸入材料評価
- ・高機能化と低コスト化

また第2のサブテーマ「自動車の海外生産と材料調達」について討議された項目は次のとおりであった。

- ・海外調達材の評価



自動車側7委員、鉄鋼側6委員によるパネルディスカッション

- ・海外生産の技術パターン 現地対応型か集中管理型(グローバル型)か
- ・国内の空洞化対策

以上の項目について活発な討議がパネラーや聴衆の間で行われた。

九州大学の文系大講義室で行われた今回のシンポジウムには、目算で延べ約170~180人程度の参加があったと思われる。シンポジウムの終了後何人かの聴衆に感想を伺った所、「もう少しパネルを聴きたかったのに時間が短くて残念だった」、「新しい自動車用鉄鋼材料への取組みがまとまって聞けるので大変参考になる」、「鉄屋と自動車屋が一緒に集って討論出来るこの様な場所を今後も是非作って欲しい」など前向きに評価する御意見が多かった。

日本鉄鋼協会の新しい方針で秋の講演大会の運営が変わることになるので、このシンポジウムもそれに合せて実行方法を考えながらこれまで以上に活発に続けてゆきたいと願っている。

文 献

- 1) 自動車用材料シンポジウム「いま自動車用材料に期待されること~低コスト化と材料技術~」, (1994), [日本鉄鋼協会]

(平成6年11月4日受付)